

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
湯の山街道	<p>平安時代、姫路から三木を経由して有馬の湯に通じる道が整備されはじめ、山陽道を補う街道としても利用されていた。戦国時代に入り、有馬の湯を知った羽柴秀吉は、三木合戦の最中、兵卒のけが人に対して、この有馬の湯を汲んできて、志染町安福田(あぶた)の野風呂で療養されたとも伝えられている。それ以来、「湯の山街道」と呼ばれ、江戸時代も参勤交代や西国からの湯治客が往来した街道である。(出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>			●	●	三木市	私の好きな兵庫のまちなみ100選(兵庫県)	●
金物	<p>金物産業は、三木市の工業生産額の約32%を占めている。現在では工具を中心とした製品が多く開発、生産されている。事業所の規模は9人以下が約80%と圧倒的に家内工業型が多く、経営者や従業者の高齢化も進んでいる。半面、優れた技能を持った人材が多く、すそ野が広い産業でもある。</p> <p>三木金物まつりは、市役所前広場をメイン会場として開催しており、例年、県内外からたくさんの人出で賑わう、三木市の一大イベントである。地元金物製品を一堂に集めた三木金物展示・直売会、包丁研ぎ・鋸目立等を開催している。</p> <p>三木市立金物資料館横では、金物古式鍛錬技術保存会が鍛冶の伝統技術を伝えていくため、鋸(のこぎり)、鑿(のみ)、鉋(かんな)、鏝(こて)、小刀(こがたな)の製造業者が交替でふいごを使い、古式ゆかしく金物を鍛える古式鍛錬実演を進めているなど、地場産業を目に見える形で継承している。(出典:兵庫百景 I (神戸新聞総合出版センター発行)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>				●	三木市		●
三木城下町まちづくり協議会	<p>三木城下町まちづくり協議会は、歴史的まちなみや史跡などの地域の資源を活かしながら、地域の活性化へ向けて取り組むとともに、アンケート調査をもとに策定したまちづくり基本構想に基づき、その具体的な実践活動に取り組んでいる。協議会の中に3つの専門部会を設け、緑化活動、タウンウォッチング、歴史街道の看板設置等、各部会で連携しながら個別の実践活動に取り組んでいる。緑化活動では総合学習の一環として、地元小学校とも連携した活動に取り組んでいる。</p> <p>第7回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 受賞 (出典:兵庫県HP)</p>			●		三木市		
淡河川疏水路施設群	<p>淡河川・山田川疏水関連施設は、印南野台地一帯で水田を拡大・維持するための灌漑施設として設けられた。</p> <p>淡河川からの引水事業は、明治19年(1886)にサイフォン技法によって用水を南下させるという近代技術を応用した計画が持ち上がる。工事は明治21年(1888)に着手し、芥子山隧道などの難工事を経て、3年をかけて26kmあまりの幹線水路と28ヶ所の隧道などを含む施設が完成した。</p> <p>山田川疏水事業は、淡河川疏水事業後に要望が増えたことを受け、明治44年(1911)から8年をかけて約10kmの幹線水路と19ヶ所の隧道、山田池を含む62ヶ所のため池築造等が行われた。</p> <p>これらの事業により、上流河川から灌漑施設を通じて流下させ、ため池に貯水して利用するシステムができ、印南野台地が穀倉地帯に変わった。一帯の景観にも大きく影響を与えた近代化遺産である。(出典:兵庫県HP、兵庫県の近代化遺産(兵庫県教育委員会)、三木市HP)</p>	●				三木市		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
志染川下流(縮見の屯倉と二人の王子)	古代播磨の内陸部には、大和朝廷と出雲国や吉備国を結ぶ主要な交通路「鉄の道」があった。それは志染川に沿っていたものと考えられており、この付近に強大な勢力を持つ豪族が存在したのではないかといわれている。川を遡ると、清流の上に美しい石の橋が見える。有名な「御坂の眼鏡橋」である。眼鏡橋のそばに御坂神社がある。このように、古代から近代にかけての歴史を感じさせる景観資源が分布している。(出典：ふるさとの川紀行(神戸新聞総合出版センター発行))	●			●	三木市		
美囊川(美しい流域に古代の王国)	美囊川の歴史は古い。播磨国風土記に美囊郡があり、伊射報和氣命(いざほわけのみこと)が「この土地は水流がとても美しい」といわれたので、美囊(みなぎ)と呼ぶようになったという。豊かな水と平野部に恵まれたこの地方には、豪族による王国が栄えたといわれ、正法寺古墳や愛宕山古墳がそれを物語っている。桜のシーズンには川の周辺は満開の桜で埋め尽くされる。また川越しには三木城跡が望める。上流域では谷に沿って蛇行を繰り返す、川の周りにはのどかな田園風景が広がる。(出典：ふるさとの川紀行(神戸新聞総合出版センター発行))	●			●	三木市		
蓮花寺	蓮花寺は、吉川の南側に連なる山地にある寺院である。大化元年(645)法道仙人の開基と伝えられ、寺領16町4面、18院33坊の大伽藍を擁し、隆盛を極めていたが、天正7年(1579)の三木合戦の戦火を受け、今は江戸時代に再建された本堂、多宝塔、鐘楼、仁王門などがある。鐘楼の梵鐘は貞和2年(1346)の銘を持ち、県の指定文化財に指定されている。秋には赤や黄色のモミジが荘厳なお寺に映える。 4匹の大鬼が松明をふりかざして踊る勇壮な鬼踊り(追儼式)は、節分の日に近い2月の第1日曜日に行われる。明治の初めに一時中断したが、昭和41年(1966)奥の院の改修落慶法要に復活。昭和48年(1973)より毎年上演している。門前に蓮花寺村の集落があり、行事は村人が担当し、世話役も村人があたる。村に鬼株が2軒あり、1軒は勤兵衛を名乗り他は同家の分家である。元は蓮花寺の僧だという。 鬼役は赤鬼1人、黒鬼1人、青鬼2人、小鬼4人である。他に錫杖持ち、鐘叩きの世話人各1人である。演舞に先立ち鬼役は鎮守社へ行き、先頭の赤鬼は本堂前の灯籠に火を入れる所作をする。全員がそろって演舞する。親鬼は返盃を繰り返す、小鬼は四方拝を踊る。勇壮な祭りは地域の文化景観として貴重である。(出典：ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター発行)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市口吉川町蓮花寺188		●
密教院	密教院は、通称善祥寺と呼ばれ、孝徳天皇の白雉2年(651)に法道仙人が開基したといわれている。当時は一山に諸堂宿坊の薨が並び壮麗を極めたが、天正年間の三木合戦のとき兵火に遭い消失した。その後、再興され幾多の修理と再建を経て現在に至っている。境内の古い鎮守社(1間社春日造、茅葺)は、県の重要文化財に指定されている。大賀ハスや、京都の巨椋池系のハスなど、住職が集めた200種類を超えるハスが境内で栽培されており、古い鎮守社と相まって美しい景観をつくっている。(出典：三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●			●	三木市口吉川町善祥寺27-1		●
三木ホースランドパーク	三木ホースランドパークは、平成11年(1999)、国道175号沿いにオープン。自然と人と馬とのふれあいを通じ、活力と魅力のある地域振興と文化の創出に貢献するために、新たな自然環境の整備を行い、馬術を中心とした競技やスポーツ振興、さらには自然にふれあうキャンプ場など、野外活動の拠点として開園された。総面積約162haの内、約80%を占める130haの森林、緑地が保全されており、「ミオの森」、馬事ゾーンの「エクウスの森」、野外活動ゾーンの「エオの森」があり、緑に親しむ景観資源となっている。(出典：三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				三木市別所町高木ホースランドパーク	ひょうごの森百選(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
美囊川	リバーサイドパークは、市街地の中央部を流れる美囊川の河川敷にある水と緑が一体となった公園。河原には芝生が広がり、グラウンドゴルフやゲートボールなどが楽しめるスポーツゾーン、多目的広場や芝生広場のあるオアシスゾーン、ジョギングや散歩が楽しめる園路等がある。春には桜並木の下に家族連れが集まる。川土手に続く桜並木も、夜は町明かりにほんのりと照らし出された桜の風情が、見る人の心をなごませてくれる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				三木市末広	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 伝えたいふるさとの景観(兵庫県)	●
美囊川リバーサイドパーク	美囊川リバーサイドパークは、市街地の中央部を流れる美囊川の河川敷にある水と緑が一体となった公園である。グラウンドゴルフやゲートボールなどが楽しめるスポーツゾーン、多目的広場や芝生広場のあるオアシスゾーン、ジョギングや散歩が楽しめる園路等がある。 (出典：三木市HP)	●				三木市末広		○
神戸電鉄三木駅駅舎	神戸電鉄三木駅は、昭和13年(1938)に三木電気鉄道が三木東口駅(現在の三木上の丸駅)から延伸された際に、三木福有橋駅として開業した。駅構造は相対式ホーム2面2線の行き違い可能な地平駅でホーム有効長は4両である。駅からは美囊川の対岸に白壁の古い土蔵が見えるなど、アイスポットとなっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))			●		三木市末広	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
県立三木山森林公園	三木市の中心部にある面積約90haの里山林で構成される公園。敷地の中に、音楽ホール、芝生広場、休憩所、クラフト館などが点在する。 春には、赤紫のコバノミツバツツジや白のアセビの花が彩りを添える。 夏には、コナラやソヨゴの緑が一段と深みを増す。 秋には、モミジやタカノツメの赤や黄色の葉が秋風に舞っている。 冬には、雑木林の中の日だまりに落葉を踏む足音が聞こえる。 四季に応じた緑と花が織り成す景観が県民、市民に親しまれている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、三木市HP、三木市観光協会HP)	●				三木市福井字三木山2465-1	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) ひょうごの森林浴場50選(兵庫県)	●
三木鉄道記念公園	三木鉄道三木線は、平成20年(2008)4月に廃止となったが、旧三木駅駅舎の改築と周辺地の整備が行われ、平成22年(2010)春に地域の活性化と交流の拠点として「三木鉄道記念公園」がオープンした。 旧駅舎を利活用した三木鉄道ふれあい館には、旧国鉄時代を含む三木鉄道で使われていた物品や写真などが展示され、三木鉄道を懐かしむ空間が設けられている。隣接するMIKI夢ステーションは、旧三木駅の車庫を改修した建物であり、惣菜や食品などを販売する農産物直売所と地元産食材を使った食事処として利用されている。 旧三木駅のプラットフォーム跡には多目的広場が整備され、ゲートボール場やグラウンドゴルフ場として利用されている。また、かつての軌道が分かるようにレールが残されており、200mほどのレール上をサイクルトロッコが子どもたちを乗せて走ることができるなど、地域の貴重な景観資源となっている。 (出典：三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)			●		三木市福井2-12-42		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
明石道峯構付城跡	明石道峯構付城跡は、戦国時代の三木合戦の際に築かれた付城群の1つである。羽柴秀吉は、三木城攻略のため、三木方への兵糧搬入と援軍を阻止する目的で、三木城を包囲する約5.5kmにおよぶ土塁と平井山の本陣をはじめ約40の付城を築いたとされている。この付城は、戦国時代の城攻めに関する貴重な資料であることから、平成13年に歴史の森公園として保存・整備された。観光や校外学習に利用され、市民の憩いの場となっている。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP)	●				三木市福井		●
旧三木高等女学校	兵庫県立三木高等女学校は、昭和2年(1927)、三木城跡がある上の丸に移転された。当初は本館と講堂のみであったが、生徒数の増加に伴い、東館・新館などが増築された。戦後は新制の三木高校となり、昭和41年(1966)に新校舎に移転し、新館は現在、市の庁舎として使用されている。 東館は、昭和2年(1927)建築の木造平屋建で、新館は昭和17年(1942)建築の木造二階建である。地域の人々に親しまれた学校の景観を今に伝えている。 (出典:兵庫ふるさとスケッチ(神戸新聞総合出版センター発行)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市上の丸町4-5		●
金物資料館、金物神社	金物資料館は昭和51年(1976)に開館し、金物に関する貴重な資料、金物製品を保存、展示している。古くから伝わる昔ながらの金物の作り方や、職人が「かじやさん」と呼ばれていた時のことがよくわかる。 金物資料館の前庭には唱歌「村のかじや」記念碑が昭和53年(1978)に建立された。この記念碑は大正初期から子どもたちに歌われ、親しまれてきた「村のかじや」が教科書から姿を消したことを惜しんで建てられたものである。 三木金物古式鍛錬技術保存会では、鍛冶の伝統技術を伝えていくため、鋸(のこぎり)、鑿(のみ)、鉋(かんな)、鋳(こて)、小刀(こがたな)の製造業者がふいごを使い、古式ゆかしく金物を鍛える古式鍛錬の公開実演を実施している。地域の産業の様子を今に伝える景観資源である。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市上の丸町5-43		●
雲龍寺	三木城主別所長治公は、羽柴秀吉との戦いの末、「三木の干殺し」といわれる秀吉の兵糧攻めにより、兵たちの惨状を見るに忍びず、長治公はついに自決して果てた。別所長治が自刃の際、住職に後を託し、愛用の金天目の湯呑みを贈ったとされる。また、住職が別所長治夫妻の首を貰い受けて埋葬したと伝えられる首塚がある。 雲龍寺では、毎年1月17日には別所公祥月命日法要が行われる。別所公祥月命日法要は、別所公春まつりとともに、三木地区区長協議会が提唱して結成された、「別所公奉賛会」が主催者となり、公を偲びその遺徳を讃えるため、法要を執り行っている。また当日行われる「うどん会」は、当時の惨状を忍び、領民を思う公の遺志を後世に語り継ぐため、ワラに見立てたうどんを食べる行事であり、地域で継承されてきた貴重な伝統を知ることができる。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市上の丸町9-4		●
三木市役所庁舎	三木市役所は、平成5年(1993)に完成した新庁舎を有し、三角屋根が特徴的なガラス張りの庁舎である。8階の展望ロビーからは、三木の市街地と美囊川流域に広がる田園を見渡すことができる。また、秀吉が陣を敷いた平井山を望むことができる絶好の展望場所となっている。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、三木市HP、三木市観光協会HP)			●		三木市上の丸町10-30	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
三木城跡	<p>三木城跡は小高い丘の上にあり、手に取れそうなところに眼下の町並みを望むことができる。三木城には壮絶な伝承がある。天正6年(1578)、三木城攻略を決めた羽柴秀吉は、兵糧攻めの策に出た。ろう城が続き、城内に餓死者が出はじめ、城主である別所長治は一族と自刃するから兵を助けてほしいと申し入れる。秀吉は応じ、最後に酒食を差し入れたといわれる。これにちなんで、本丸跡には、「今はただうらみもあらじ諸人のいのちにかはる我身とおもへば」と記された長治公辞世の歌碑がある。毎年5月5日には三木城跡を中心に市内各所で長治公を偲び、三木の大神人として後生に長く語り継ぐための行事として別所公春まつりが行われる。</p> <p>周辺には金物資料館、横山大観や堂本印象の絵画を所蔵する堀光美術館などがあり、地域の歴史文化の拠点となっている。</p> <p>(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))</p>				●	三木市上の丸町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
本町地区	<p>三木市の城下町、美嚢川南岸の旧街道沿いに町家や商家の町並みが残る。付近には「右ひめぢ道 左あかし道」の道標や、秀吉が本陣を置いた本要寺がある。本要寺は別所長治の首検分がされた寺である。三木合戦で残った寺院で、秀吉が最後の本陣とした。三木住民の税を免除した秀吉の制札を納めた宝蔵と、制札を守って町を救った三木義民を讃える碑がある。毎年7月18日には「夏の義民祭」が開催される。旧玉置家住宅や旧小河家別邸、道標などが保存され、歴史的な町並み景観を今に伝えている。</p> <p>(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>				●	三木市本町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 伝えたいふるさとの景観(兵庫県)	●
旧街道	<p>美嚢川南岸の本町2丁目に古い町並みが残る。近くには「右ひめぢ道 左あかし道」の道標や、秀吉が本陣を置いた本要寺もある。</p> <p>(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))</p>					三木市本町		○
本要寺	<p>本要寺は、別所長治の首検分がされた寺。三木合戦で残ったお寺で、秀吉が最後の本陣とした。三木住民の税を免除した秀吉の制札を納めた宝蔵と、制札を守って町を救った三木義民を讃える碑がある。毎年7月18日には「夏の義民祭」が開催される。</p> <p>(出典:三木市HP)</p>					三木市本町		○
小河家住宅、小河氏庭園	<p>小河家住宅は、明治時代後期に小河秀太郎氏が別邸として建築したものである。秀太郎氏は酒造業を開始し、その後、三木銀行の創立への関与や県会議員を務める等、当地の有力な実業家であった。住宅の敷地は南北に細長く、弓形に曲がる北面道路と南側の露地に面して広大な屋敷が広がっている。四周に石垣を巡らせ、その南半部に主屋を含む木造建築群、北半部に園池を中心とする主庭を配置している。</p> <p>主要室には上段の間を設ける等、明治時代の國包(現在、加古川市)建具工や大工の水準の高さを示す一品となっている。使用された技術は、見えがかりは全て和風で、見え隠れも小屋組を和小屋組にする等、伝統的な技術によって建設されている。全国から取寄せた銘木を惜しげなく使用し、自由に表現した建物で、再建が困難な貴重なものである。</p> <p>三木城の城下町として発展した三木市本町の主要な景観構成要素となっている。</p> <p>(出典:三木市HP)</p>				●	三木市本町3-6-24		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
旧玉置家住宅	<p>旧玉置家住宅は、文政9年(1826)に、上州館林藩(じょうしゅうたてばやしはん)の財政建て直しを図るため、切手会所(今の銀行)として建てられた。玉置家の住宅となったのは、明治8年(1875)のことである。江戸時代に建てられた第一期の建物と明治以降に増築された第二期の建物に分かれており、第一期の建物は、文政9年(1826)に建てられた母屋二棟(道路側)、土蔵一棟(中庭右側)である。第二期の建物は、明治初期に玉置家の居宅になって、初代大器氏と三代目福蔵氏により、離れ座敷、渡り廊下が増築され、当時の匠技が施されている。</p> <p>旧玉置家住宅は、三木城の城下町として発展した三木市本町の主要な景観構成要素となっている。(出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>			●		三木市本町2-2-17		●
旅亭文市楼	<p>旅亭文市楼は、旧三木城下町の西南に建つ旅館である。創業は明治2年(1869)であるが、大正9年(1920)にこの地に移転した。敷地は西側の公道から石敷きの通路を玄関に伸ばした奥に広がり、大広間棟、客室棟、新館の3棟で中庭を取り囲むように建ち、隣地は全て住宅が建て込んでいる。大広間棟、客室棟、新館の順に建てられたとみられ、内装が一部改装されたものの、外観や主要な客室の意匠などは建築当時のままであり、大正期から昭和初期にかけての料理旅館の姿を伝える貴重な景観資源である。(出典:兵庫県近代和風建築(兵庫県教育委員会))</p>			●		三木市本町3-10-19		●
大宮八幡宮	<p>大宮八幡宮は、天永2年(1111)、月輪寺院主慶算創建と伝えられている。三木別所氏累代の守護神であったが、天正の兵乱で焼失。天正13年(1585)に中川秀政が再建、以後三木5ヵ町他の産土神となった。10月には勇壮な秋まつりが行われる。氏子各町の屋台(8台)が、高台にある境内へと85段の石段を上がっていく練り(宮入)と、石段を下る練り(宮出)がある。この「屋台の石段登り(市指定無形民俗文化財)」は、他の神社の屋台練りとは大いに違い、播州地方の祭礼では大変めずらしいものである。約2トンもの屋台を豪壮に担ぎ上げる迫力はまさに圧巻である。</p> <p>1月の第3日曜日には、鬼追い式が行われる。鬼追い式は、江戸時代の17世紀後半頃から月輪寺で行なわれていたが、昭和14年(1939)に中断。昭和38年(1963)に大宮八幡宮と月輪寺の協力で有志による三木鬼追い保存会が発足し復活した。月輪寺で祈禱を受けた鬼は、文殊堂、不動尊を回向し、大宮八幡宮拝殿に参拝し、ご神火を松明に移し、鳥居石段上から松明を打ち振るい町と人々の安寧を祈願したのち、赤鬼、黒鬼の大鬼と子鬼の踊りが行なわれる。また、大鬼による餅つきや餅まきも行われる。いずれの祭りも勇壮な景観を今に伝えている。(出典:三木市HP、三木市観光協会HP)</p>			●		三木市本町2-19-1		●
ナメラ商店街	<p>三木城下町まちづくり協議会では、昭和をテーマにした「レトロヂ」、三木合戦がテーマの「戦国ノーサイド」、三木市内の観光スポットをリレーで走る「三木ナメラン」など、様々なイベントを市内外へ向けてPRしている。</p> <p>ナメラ看板は、商店街が所有していた古い大型看板を活用し、行政と共に観光を活性化する看板としてリニューアルしたものである。現在は県外からも看板を見に来る人がいるほど地域のシンボルとなっている新しい街の景観資源である。(出典:三木城下町まちづくり協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>			●		三木市本町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
正入寺	正入寺は、慶長6年(1601)に姫路城主池田輝政の家老、伊木豊後守忠次が三木城主となった時、先君池田勝入齊信輝公追善のため、尾州知多郡大野の齊年寺より日山和尚を招いて建立し、護国山勝入寺と号して伊木氏の菩提寺とした。今は正入寺としているが、池田信輝、姫路城主池田輝政、伊木豊後守忠次、長門守忠繁の位牌を祀り、境内には供養塔もある。三木城の歴史と深く関わり、地域の歴史文化の拠点となっている。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)			●	●	三木市本町1-7-21		●
芝町の伝統的なまちなみ	稲見酒造は、湯の山街道に面する酒蔵と事務所で、明治、大正、昭和初期の建物で構成されている。湯の山街道の入り口部分に面した事務所となっている建築物は建設時の意匠が維持されており、街道沿いの町並みの中で景観のシンボルとなっている。 三宅徳松商店は、湯の山街道に面する商家と離れで、現在も金物店の事務所として使用されている。母屋に隣接し、街道に面して建てられた離れと門塀は建設時の伝統的意匠が維持されており、街道沿いの町並みの中で景観のシンボルとなっている。 稲見酒造及び三宅徳松商店は、ともに県の景観形成重要建造物に指定されている。(平成22年度)これらの建造物は芝町の伝統的な町並みを今に伝えている。 (出典:兵庫県HP)			●		三木市大塚・芝町	伝えたいふるさとの景観(兵庫県)	●
稲見酒造	稲見酒造は、湯の山街道に面する酒蔵と事務所で、明治、大正、昭和初期の建物で構成されている。街道の入り口部分に面した事務所となっている建築物は建設時の意匠が維持されており、街道沿いの町並みの中で景観のシンボルとなっている。県の景観形成重要建造物に指定されている。 (出典:兵庫県HP)			●		三木市芝町2-29		○
三宅徳松商店	旧湯の山街道に面する商家と離れで、現在も金物店の事務所として使用されている。母屋に隣接し、街道に面して建てられた離れと門塀は建設時の伝統的意匠が維持されており、街道沿いの町並みの中で景観のシンボルとなっている。県の景観形成重要建造物に指定されている。 (出典:兵庫県HP)			●		三木市芝町		○
平井山ノ上付城跡	羽柴秀吉が三木城攻めの本陣とした付城であり、美囊川と志染川の間に面した山上に位置する。南西には三木城を望むことができる。 天正6年(1578)7月、織田信忠が当地に着陣して築城し、羽柴秀吉に引き渡したとされる。10月22日に別所方が襲来して平井山合戦が繰り広げられ、別所治定などが討ち死にし、別所方は敗北した。 数多く残る三木城攻めの付城群の中で最大の規模を誇り、三木城の反対側の谷部に雛壇状の曲輪(くるわ)群を設け、軍勢の駐屯部を確保している。 竹中半兵衛は美濃(岐阜県)出身の武将で、秀吉の軍師として活躍したが、三木城攻防戦の最中、平井山の陣中で病死した。本陣のあった山に続くぶどう畑の中、白い練り塀に囲まれて墓がある。 戦国時代の歴史を彷彿とさせる景観資源である。 (出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●			●	三木市平井、与呂木、志染町安福田	伝えたいふるさとの景観(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
竹中半兵衛の墓	竹中半兵衛は美濃(岐阜県)出身の兵法家で、秀吉の片腕として活躍したが、三木城攻防戦の最中、平井山の陣中で病死した。本営のあった山に続くぶどう畑の中、白い練り堀に囲まれて墓がある。戦国時代の歴史を彷彿とさせる景観資源である。(出典:三木市HP)				●	三木市平井		○
岩壺神社	岩壺神社は、白雉2年(651)の創設で、享保年間(1716~1735)には焼失したが、その後この地の産土大神として再建された。社裏の川に大盤がありそれを壺と称してこの名がついたという。毎年10月の秋まつりには7基の立派な「ふとん屋台太鼓」が参道を練り歩く。播磨を代表する祭りの景観を呈している。(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市岩宮391		●
オンダ(行事)	毎年5月には、長屋地区でオンダの行事が行われる。午前中に氏神の岩壺神社でお田植え祭りが行われ、午後に村人がトウニンの家集まる。宴会の後、「栄柴」と呼ばれるツツジとサカキの枝を束ねたものを三束持って、神社へ赴く。唱えごとをし、稲を象徴する栄柴を振って豊作を祈る。次に神社の宮田に、そしてそれぞれ自分の田に栄柴を立て、残り一束を家に持ち帰り神棚に祀る。地域の伝統的な習わしが伝えられている。(出典:ふるさとの原像(神戸新聞総合出版センター発行 2012.4.20))		●		●	三木市岩宮		
慈眼寺	慈眼寺は、大化4年(648)に法道仙人の開基と伝えられ、一時荒廃したが南北朝時代に播磨の守護、赤松則村が再興したという縁起をもつ。境内には、明治初年に両国(東京)の回向院から分墓した、鼠形の石の台座に墓碑を乗せた鼠小僧次郎吉の墓が祀られている。また、鐘楼には延慶2年(1309)の銘がある梵鐘(県指定文化財)がある。この梵鐘は、天正年間の三木合戦のおり、羽柴秀吉の武将、有馬法印則頼が寺の裏山に布陣し、陣鐘(じんがね)に使用したと伝えられている。通称「一本松」と呼ばれる慈眼寺裏山の山頂には、三木城を攻めるために築かれた陣城跡があり、有馬法印則頼が陣を置いたといわれている。市街地はもちろん、遠く淡路の島影まで見渡せるすばらしい眺望が広がっている。また、慈眼寺の境内は紅葉の名所としても知られている。(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●			●	三木市久留美1722	ひょうご紅葉四十八景(神戸新聞)	●
栄運寺	栄運寺は、元禄5年(1692)に開山された比較的新しい寺院であるが、この裏山にもうひとつの竹中半兵衛の墓があることで知られている。羽柴秀吉の本陣があった平井山は地続きの山で、秀吉は安福田の里をよく訪れ、陣中の汗を流した野風呂があったと言われている。また、栄運寺からは神戸市西区の雄岡山、雌岡山の二つの山が仲良く並んでいるように眺めることができる眺望の場となっている。(出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市志染町安福田577		●
千体地蔵	千体地蔵の年代ははっきりしていないが、室町時代から子宝地蔵として信仰を集めている。願をかけ、子どもが授かるとお礼に新しい地蔵が置かれていくので、その数は数えきれず、千体地蔵と呼ばれている。大谷川沿いの山裾一面に多数の地蔵が並び、1mほどの大きさの本尊は砂岩に刻まれている。山裾の地蔵は生活のなかでの祈りの景観を今に伝えている。(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市志染町井上		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
志染の石室	「志染の石室」と呼ばれる岩穴には、仁賢天皇、顕宗天皇となった二王子の伝説が古くから伝わり、「日本書紀」や「播磨国風土記」にも記されている。5世紀後半ごろ、第20代の安康天皇が亡くなったあと、皇位をめぐる争いが起こり、この争いから逃れた市辺押磐皇子(いちのべのおしわのみこ)の二人の王子、億計(オケ)王子と弘計(ヲケ)王子が隠れ住み、のちに弟の弘計王子が顕宗天皇に、兄の億計王子が仁賢天皇になられたと伝えられている。 志染の石室は、窟屋大橋を渡った小道の奥、山の裾野を進んだ先のひっそりとした木立の中にある。また、菜の花が咲く頃になると、ひかり藻の作用で水が金色に光ることから、別名「窟屋の金水」と呼ばれている。 (出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				三木市志染町窟屋		●
淡河川(湯の山街道とともに)	御坂神社の前で志染川から分岐した淡河川は、主要地方道三木・三田線に沿うように流れる。淡河川沿いの旧街道は「湯の山街道」と呼ばれ、古くから有馬温泉への湯治の道として、三木の本陣にいた秀吉もしばしば有馬に通ったといわれる。江戸時代には参勤交代の大名も通ったといわれ、淡河は最大の宿場町として栄えた。宿場町を出た淡河川は、山間の田園地帯を緩やかに流れる。 (出典:ふるさとの川紀行(神戸新聞総合出版センター発行))	●	●			三木市志染町戸田		
御坂サイフォン橋	志染川の清流にかかる「御坂サイフォン橋」は、イギリス陸軍少将パーマー氏の設計により、日本で最初のサイフォン(噴水管)橋として築造され、明治24年(1891)に完成した。その後、昭和26年(1951)に増設され、橋長は52.4mとなっている。 山から谷を通して向かいの山へ水を運ぶこの疏水工事は、当時としては画期的な大事業で、1世紀以上経た今日でも立派な役目を果たしている。その姿から眼鏡橋と呼ばれ、近代土木技術を伝える橋として、県民、市民に親しまれている。 (出典:兵庫ふるさとスケッチ(神戸新聞総合出版センター発行)、三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市志染町御坂	伝えたいふるさとの景観(兵庫県)	●
御坂神社	御坂神社は、鎮座年代は不詳であるが、播磨風土記には、履中天皇がこの神社にご参拝になったことが記されている。「みさか神社」(御坂、三坂、美坂、御酒)と呼ぶ社は市内に8ヵ所あるが、この神社は天正の兵乱で焼失し、慶長13年(1608)に現在の地へ移したといわれている。本殿外壁上部の白虎、青龍や手挟の彩彫が美しい。 毎年2月11日にはお弓神事が行われる。五穀豊穡や破邪顕正を祈り、弓場で6人の射手が20m先の的を狙い、10本の矢を放つ。また5月の上旬には五穀豊穡を祈る春の例祭が行われ、御坂・細目の2屋台を地元青年が担ぎ、能舞台では獅子舞や浦安の舞が奉納されるなど、伝統的な祭事の景観が受け継がれている。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市志染町御坂243		●
吞吐ダム	吞吐ダムは、三木市や神戸市、東播磨地域の水がめとして昭和61年(1986)に完成した人工の湖である。堰堤の長さが260m、高さが71.5m、総貯水量は1,886tを誇り、満水面積は105haに達する。 昔ここには大小の滝があり、それらが川の水を呑んでは吐き出し、しぶきをあげて流れ落ちる様は壮観で「吞吐の滝」と呼ばれていた。現在、姿は変えたが雄大な「つくはら湖」は人々に親しまれ、四季折々の美しさが湖面を彩り、訪れる人々の心を和ませてくれる。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				三木市志染町三津田		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
伽耶院	志染町大谷にあり、志染川を挟んで、志染の窟屋の反対側に、このあたりでは数少ない修験道の寺がある。寺伝によると、法道仙人が毘沙門天のおつげで、大化年間(7世紀半ばごろ)に創建したといわれ、中世にはかなり栄えたといわれる。しかし秀吉の三木城攻撃のとき、この東南にある丹生山明要寺とともに兵火にかかって一山ごとく焼失してしまった。その後江戸時代に姫路城主池田輝政や明石城主小笠原忠真らに帰依され、一部が再建されて現在にいたっている。花山天皇の行幸もあり、全盛時代は数十の堂宇、百三十余の坊があったといわれている。 10月には関西一円の修験者が山伏姿で集まり、ホラの音が全山にこだまし、もうもうと煙の立ちこめる大護摩が行われる。志染川沿いの重要な景観資源である。 (出典:三木市HP)	●				三木市志染町 大谷410	ひょうご紅葉四十八景(神戸新聞)	●
志染ミヤケ	ミヤケとは、大和朝廷が設置した直轄地のことであり、播磨国風土記には、志深ミヤケでの宴で披露された歌が紹介されている。志深ミヤケの名は、現在の三木市志染の地名に残っており、鉄との関わりが深いと考えられている。鉄産地である播磨西北部さらには吉備・美作とも結びついて、播磨の鉄生産・供給の拠点施設としての役割を果たしていたと考えられる。志染町には、古墳群や遺跡のほか、伝承の地が数多く存在し、播磨国風土記の物語を感じさせる景観が残っている。 (出典:風土記からみる古代の播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2007.3.20))				●	三木市志染町		●
宮ヶ谷調整池	宮ヶ谷調整池は印南野台地の東北端に位置し、淡河川疏水と山田川疏水が合流している。同池からは印南野台地のなだらかな傾斜を利用し、南西方向に水路を延ばしている。 明治24年(1891)、水不足に苦しむ印南野台地の人々の懇願により、兵庫県は宮ヶ谷調整池を含む淡河川疏水幹線をつくりあげた。当時の史料によると貯水量は108万トンだが、現在では約半分の59万トンになっている。その後、山田川疏水幹線が大正時代に入ってから開通した。 この池は水量調整機能が重要であり、2つの河川から送られる年間合計通水量数千万トンもの水を一時的に蓄え、合流幹線の流量を適切に調整している。いわば淡山疏水の心臓の機能を果たしており、今でも巨大な堤体によって、印南野台地へ送る水をたたえている農と関わる歴史を伝える景観資源である。 (出典:播磨のため池(神戸新聞総合出版センター))	●				三木市志染町 広野		●
年ノ神6号墳	年ノ神6号墳は、5～7世紀の12基からなる古墳群を構成する古墳の一つである。6号墳は長辺13m、短辺10mの方墳であり、周囲を削って尾根筋が溝状に区切られている。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	三木市鳥町		
八幡の森史跡公園	三木城跡から美囊川を渡り、市街地が広がる一角に八幡の森史跡公園がある。周辺には住宅が建ち並ぶが、小さな公園内には墓を囲むように大木が茂っている。八幡の森史跡公園には、三木城主別所長治と婚姻関係にあり、同盟を結んでいた淡河弾正忠定範の墓がある。淡河弾正は知恵と勇気を併せ持った優れた武将で、秀吉の弟の秀長軍が攻めてきた時、雌馬の群を放って、騎馬軍勢を混乱させ、城に火をつけてその隙をついて三木城へ逃げのびた。平田、大村の合戦でも大活躍するが、撤退の途中に八幡の森で割腹して最後をとげたとの謂れがある。この公園は、市街地のなかにあつて、三木の歴史を伝える景観資源となっている。 (出典:三木市HP)	●			●	三木市加佐		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
金剛寺	<p>金剛寺は、白雉2年(651)に法道仙人が開いたとされている。天長4年(825)、空海が諸国修業の折に立ち寄り、カヤの木で薬師如来を刻み、一堂を建立したと伝えられている。天正の兵乱で堂塔を失ったが、大村由巳の尽力で寛文5年(1665)に現本堂が建立された。</p> <p>赤、黒の鬼が松明を振って踊る金剛寺の鬼追い式は、4月の第2日曜日に金剛寺春祭り、聖天様の祭日と共に盛大に執り行われる。</p> <p>寺院は森林で囲まれ、境内には静寂な雰囲気漂っており、四国八十八ヶ所霊場めぐりができる林道も設けられている。池を配した庭園などが美しく、紅葉の時期は色づいた木々で彩られ、紅葉の名所となっている。</p> <p>(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●			●	三木市大村1041		●
谷大膳の墓	<p>羽柴秀吉の豪将として活躍した谷大膳は、三木城攻防戦の時、平田村山ノ上付城で三木城の糧道遮断の守りについていた。毛利別所連合軍との平田大村合戦で戦死した谷大膳の墓は、平田村山ノ上付城跡にある。また位牌は金剛寺に納められている。三木合戦の歴史を伝える景観資源である。</p> <p>(出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●			●	三木市大村		●
常厳寺	<p>常厳寺は、大河ドラマ「太平記」でも活躍した、赤松則村(円心入道)ゆかりの寺である。赤松氏は、村上天皇の皇子貞親王の子孫で、西播磨佐用庄(上郡)に本拠を構えた。則村は、播磨の守護職として、一族繁栄の基礎を築いたが、禅宗に深く帰依して得度し、円心入道となった。上郡に法雲寺を建設し、東播磨の三木にも守護仏を祀る寺を建て、聖観音を安置しており、赤松氏ゆかりの歴史を感じさせる景観を呈している。</p> <p>(出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>			●	●	三木市宿原1038		●
法界寺	<p>法界寺は別所氏の菩提寺であり、羽柴秀吉の三木城攻めに遭い、城主別所長治が敗れて自刃したとき、その遺体を埋めたと伝えられる寺である。霊廟や別所長治夫妻の霊牌及び画像、木像がおかれている。</p> <p>毎年4月17日には、三木合戦記を絵物語にした掛軸を使い、絵解きが行われる。</p> <p>山門をくぐり、参道を登ると別所長治の墓所があり、馬に乗った長治の石造が建っている。さらに階段を上ると本堂が現れる。寺の背後には山林が控えており、山上には城跡がある。三木と深い関わりのある別所氏を偲ぶ景観資源である。</p> <p>(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●			●	三木市別所町東這田51	伝えたいふるさとの景観(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
愛宕山古墳	<p>愛宕山古墳は、標高74mの弁天山に直続する地点に立地し、丘陵尾根にそって主軸を南北にとり、前方部を北にむけて築造された前方後円墳である。後円部の頂部は標高44mで、南側に比べてやや高い尾根となっていたと思われる。</p> <p>この場所は、美嚢川が加古川に合流する場所にあり、双方の川を眺めることのできる河川の結節点である。また、地形的には内陸側と加古川下流域を隔てる分岐点でもある。後に成立する賀古、印南、美嚢、賀毛という四郡の四隅が接する場所であることも興味深い。</p> <p>墳長は約90mと大きく、低い丘陵の尾根に横たわるように存在する。墳丘までは見学路が整備され、後円部墳丘の石段を上ると頂上には祠が建っている。後円部の頂上から前方部を見渡すと、前方後円墳の全容を見ることができ、古代の景観を実感することができる。</p> <p>(出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30)、三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●			●	三木市別所町		●
かご池、増田ふるさと公園	<p>かご池のように、山間部のため池は東播用水が引かれておらず、水系は昔のままであり、生態系が保たれている。総貯水量は1,000m<sup>3</sup>程度の小さな池であり、地域住民が周辺の田畑の耕作に使っているため池であるが、多様な動植物が生息しており、三木自然愛好研究会が保護活動に取り組んでいる。</p> <p>三木自然愛好研究会は、平成9年(1997)に市内外のナチュラリストが結成。行政との協働により、ため池や農地の一部約1haを対象に、平成13年(2001)に「増田ふるさと公園」を開園。希少な動植物を増やし、子どもたちの自然観察や環境学習に役立てている。</p> <p>公園には小さな花や虫や魚たちが生息する。夏には水たまりにトチカガミやガガブタの花が咲き、メダカやカワバタモロコの泳ぎ回る姿が見え、秋には沿道にキキョウやフジバカマなどの七草が咲く。</p> <p>(出典：播磨のため池(神戸新聞総合出版センター)、三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●				三木市細川町増田		●
藤原惺窩誕生地	<p>江戸時代の儒学の祖といわれる藤原惺窩(ふじわらせいか)は、徳川家康に進講し、徳川三百年の歴史に大きな影響を与えたといわれている。また、藤原惺窩を師と仰ぐ著名な人物は数多く、官学の祖とうたわれた林羅山もその一人である。藤原惺窩の生まれた細川町では、昭和51年(1976)10月3日に第1回惺窩祭が開かれて以来毎年、藤原惺窩まつりが行われている。</p> <p>細川町桃津には「藤原惺窩生誕の地」の石碑と銅像が建てられている。銅像が建つ場所は、細川館(細川城)とも呼ばれ、美嚢川の東岸にあり、西に張り出した丘陵の先にあたる。石碑や銅像の他にも惺窩の実家である下冷泉家を供養する墓や供養塔がいくつか見られる。このように、この碑の周辺は地域の歴史を実感できる空間となっている。</p> <p>(出典：三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>				●	三木市細川町桃津	伝えたいふるさととの景観(兵庫県)	●
脇川の念仏水	<p>脇川の念仏水は、清水が湧き出で小川となることから、脇川の地名が起ったとされる念仏水である。お堂を建て「念仏井戸」として祀られ、今も清水が湧き出ている。</p> <p>むかし、空海(弘法大師)が修業でこの地を訪れたとき、近くに住む老婆に飲み水を所望したところ、老婆は乏しい水を快く差し出した。空海は喉の渇きを潤せたお礼として杖で地面を突き刺し、水を湧き出させ村人を救ったという伝承が残っている。また、この井戸に念仏を唱え、井戸底より泡が湧き上がる者には願いが叶うとも云われている。古くから地域の人々に親しまれ、大切に守られてきた景観資源である。</p> <p>(出典：三木市HP、三木市観光協会HP、三木市HP)</p>	●			●	三木市細川町脇川354		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
広野ゴルフ場	<p>広野ゴルフ場は、昭和7年6月に開場された総面積約80㎡のゴルフ場である。歴史、広さと並んで芝生の手入れの見事さなどから日本でも有数のゴルフ場といわれている。広い敷地内には、とても美しい松並木がたくさんある。その間に手入れの行き届いた新鮮な芝生が広々と美しい。左手に雌岡、右手に雄岡の山が間近に見え、池が趣を添えている。</p> <p>(出典:兵庫百景 I (神戸新聞総合出版センター発行 2014.4.8))</p>	●				三木市志染町 広野		
古川城	<p>古川城は、中世に築造されたとされる山城である。郭は大きくは主尾根、北山腹、東尾根、西尾根の四区画に分かれており、郭、土塁、掘切、土橋、横矢、堅堀などの施設が多く残っている。平成8年(1996)に発掘調査された西尾根区画では、自然の山、谷などを巧みに利用して、たやすく敵に攻め込まれない防御機能を備えた大規模な虎口(出入り口)が見つかった。現在は、ゴルフ場のコースの中に保存されている。</p> <p>(出典:三木市HP)</p>	●			●	三木市吉川町 古川		
ミツカンよかわビオトープ倶楽部	<p>ミツカン三木工場では、敷地内に160,000㎡もの広大なビオトープを整備しており、企業と地域住民、行政の協働のもと、ビオトープの保全活動に取り組んでいる。豊かな自然環境を活かし、子どもを対象とした自然観察会や、地域との合同お月見会を開催している。参加者が自ら維持管理を行うことで、自分たちの里山という意識が芽生え、保全活動に良い連鎖反応が働いている。</p> <p>ビオトープは、以下の4つのゾーンに分けられ、それぞれの特徴に応じた景観が形成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然保護ゾーンー貴重な動植物を保護・育成しているゾーン</li> <li>・よかわ里山公園ー倶楽部の活動拠点</li> <li>・湿地ビオトープー水田跡を整備した、水生動植物の観察の場所</li> <li>・赤松再生ゾーンー赤松林と松茸の再生を目標とするゾーン</li> </ul> <p>第16回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 奨励賞に受賞(兵庫県)し、企業が取り組む新しいいきもの景観を提供している。</p> <p>(出典:兵庫県HP、株式会社Mizkan Holdings HP)</p>	●				三木市吉川町 畑枝395-1		●
山田錦の館	<p>山田錦の郷は、「山田錦の館」と「吉川温泉よかたん」で構成され、地域文化の情報発信と交流の拠点として、平成16年(2004)にオープンした。</p> <p>山田錦の館は、山田錦の栽培、歴史風土、お酒など、吉川の歴史、風土が学べる山田錦ミュージアムのほかに、吉川の山田錦でつくられた銘酒の試飲ができる日本酒試飲所、地域食材を使ったレストラン、旬の野菜や果物、惣菜が揃う農産物直売所および加工所を併設している。毎年3月には、酒造家と農家と消費者が交流する一大イベントとして「山田錦まつり」が開催される。</p> <p>この建築物周囲は地域の特産品である山田錦について学び、楽しむ景観資源となっている。</p> <p>(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>				●	三木市吉川町 吉安222		●
吉川温泉よかたん	<p>吉川温泉よかたんは、療養型の本格的な温浴施設であり、含炭酸ナトリウム塩化物強塩温泉で、中でも豊富な炭酸ガスの含有量を誇り、高血圧症、動脈硬化症など循環器系の疾患に特に高い効能がある。吉川の景観に調和した和風建築の中に、炭酸成分をそのまま導く源泉風呂、趣向を凝らした大浴場や露天風呂、ゆったりできる家族風呂、話の輪が広がる足湯広場などがあり、新しい湯治場の雰囲気を感じている。</p> <p>(出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>				●	三木市吉川町 吉安222		○

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
正法寺古墳公園	正法寺古墳群は三木市を代表する古墳群であり、横穴式石室を埋葬施設とする18基の古墳から構成されている。中でも1号墳は天井石まで残る良好な状態で保存されている。周溝から一辺約16mの方墳と推定されており、須恵器長頸壺や馬具など多数の副葬品が出土している。それ以外の古墳も横穴式石室の形態や変遷を知る上で貴重な資料となる市内でも数少ない古墳群である。点在している古墳の現状保存は、正法寺地区のほ場整備事業に支障をきたすため、地区の協力のもと、1号墳の周囲に比較的保存が良好な2号墳と3号墳の石室を移設復元し、保存を図るとともに露出展示が行えるように整備された。 古墳群は、正法寺集落の背後、美囊川と加古川の合流地を望む段丘上から正法寺山にかけての重要な位置に分布している。公園からは、遠くに加古川や美囊川の流れを望むことができる。 (出典:三木市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●			●	三木市別所町 正法寺601		●
湯谷の太鼓念仏	湯谷(ゆだに)の太鼓念仏は、阿弥陀堂、観音堂、薬師堂、新仏のある家などにおいて、盆の時期である8月7日及び8月13日に行われる。旧中吉川村において各地域ごとに行われていた太鼓念仏は途絶えて久しく、今では湯谷地区に伝えられるのみとなっており、地域の文化的景観を構成する伝統芸能が大切に受け継がれている。 (出典:ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター))				●	三木市吉川町 湯谷		
吉川町豊岡	豊岡地区は、三木市の東部、旧吉川町と神戸市北区が接する場所に位置する。 神戸市との境界部分にあたる丘陵とそこから枝分かれした尾根に挟まれ、緩やかに傾斜する段状の農地が広がる田園地帯である。地区内には茅葺民家が残されており、平入りで均整のとれた屋根の高さと勾配、妻側の小さな破風、カラスと呼ばれる棟飾りを兼ねた棟押さえに特徴がある。 農地は区画が整理され、棚田の風景は残されていないが、地区内に点在する茅葺民家が農地の起伏の間に見え隠れする様子は昔ながらの風景を思わせる。 (出典:景観資源発掘及び景観重要建造物指定調査報告書(兵庫県県土整備部まちづくり局景観形成室H19.3))		●			三木市吉川町 豊岡		●
若宮神社	若宮神社の現在の本殿は、天保3年(1832)に再建されたものである。氏子が16地区、約700戸あり、その中の宮座と呼ばれる4組織により、毎年10月の第1日曜日に秋の祭礼「ヤホー神事」(県指定無形民俗文化財)が行われる。「ヤホー」は、神楽歌の「イヤアホー～」からつけられたといわれている。 神事は、獅子頭を先頭に赤い鬼面をつけた棒振り鬼、締太鼓など一同が行列を作り神楽歌を歌いながら、境内を進む。そして神前で並び、社殿の前に作られた蚊帳の中の稚児と馬上の稚児が神歌を交わす。氏子が担ぐ神輿は、五穀豊穡を祈り、天狗、お多福とともにお旅所までの馬場道を練り歩く。 ヤホー神事は室町時代から始まったといわれ、中世的な雰囲気色が濃く現在に伝えられている。神と人との交流を知る上で大変興味深く、伝統的かつ厳かな神事の風景が作り出される。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、ふるさとの原像(神戸新聞総合出版センター発行)、三木市HP、三木市観光協会HP)	●			●	三木市吉川町 福田557	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【三木市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
東光寺	東光寺は、行基の草創と伝えられ、中世には相当広大な寺域と多くの僧坊があったと伝えられている。本堂(国重要文化財)は室町中期の折衷様式でつくれ、カエルの足のような装飾など細部に凝らしている。建築技法は、同時代の折衷様式を考える上で貴重な史料となっている。そうした細部の素晴らしさがある一方で、全体的には落ち着いた佇まいを見せている。 本堂右の階段を上がると、緑に囲まれて多宝塔(県重要文化財)がそびえる。春には本堂前の石段脇に立つ桜の老木が見事な花を咲かせ、秋には紅葉が映える静かな風情が感じられる。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●			●	三木市吉川町 福吉261	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
黒滝	黒滝は、緑豊かな丘陵地に流れる美嚢川にかかる滝で、落差4m、幅30mほどあり、雄滝、雌滝の2段の流れが望める景勝地である。黒い一枚岩を伝う幾筋もの白糸のような水流が自然豊かな景観を生み出している。また、この滝には、万八たぬきとお万きつねが化け比べをしたとの民話が伝わっており、説明板によってその物語を知ることができる。自らの術によって村人から感謝された万八たぬきは、滝の傍らに「万福大明神」としてまつられており、民話の情景が感じられる。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				三木市吉川町 金会	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
土橋池	土橋池は、旧吉川町内に2,000ヵ所あるともいわれるため池の中でも特に規模の大きいため池である。高台に位置しており、満々と蓄えられた農業用水は、誉れ高い酒米「山田錦」を育てる田に注がれる。 森林に囲まれた池にはカイツブリやサギなどの野鳥が飛来し、池のほとりからは野鳥の羽を休める姿が見られる。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●				三木市吉川町 金会	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
春亥の子	春亥の子は、田の神である亥の神が田に出る際の祭りとして行われていた。現在は旧暦2月の亥の日に行われる。屋外で祀る地域では、麦田や苗代田に柀に入れた12個のおはぎやばた餅を供える。 (出典:ふるさとの原像(神戸新聞総合出版センター発行 2012.4.20))		●		●	三木市吉川町		
天津神社	天津神社は、延徳4年(1492)に建立された神社である。本殿は、正面一間、側面二間の檜皮葺入母屋造で、妻入り向拝となっている。細部の彫刻や彩色のあとに残っており、村人が一致協力してつくったという記録も残っている。平成15年(2003)12月に改修工事を終え、建立当時の鮮やかな色彩を取り戻した本殿が境内で一層存在感を放っている。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	三木市吉川町 前田998		●
法光寺	法光寺は法道仙人が開祖とされており、山門には仁王像が立ち、そこを抜けると本堂がある。鐘楼、五輪塔、古文書、鬼面など地域の歴史を伝える古刹は、秋の紅葉の名所としても知られ、錦繡(きんしゅう)の風情を漂わせる。 (出典:三木市HP、三木市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●			●	三木市吉川町 法光寺42		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。